

平成 25 年度事業報告書

平成 26 年 6 月

一般財団法人 出版文化産業振興財団

表 2

目 次

平成 25 年度事業報告	3
平成 25 年度収支報告書及び財産目録	37
平成 26 年度事業計画並びに予算	53
定款	61

平成 25 年度事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

＜総務関係＞

1. 理事会・評議員会の開催

第 53 回評議員会並びに第 100 回理事会

月日：5 月 24 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 24 年度事業報告案並びに決算報告案、監査報告」

第 2 号議案 「平成 25 年度事業計画について」

第 3 号議案 「一部役員の交代案」

- ◆ 小城武彦 理事→西村達也 理事（丸善 CHI ホールディングス社長）
井上一夫 評議員→宮本哲男 評議員（岩波書店宣伝部長）
田江泰彦 評議員→東浦澄夫 評議員（日本書店商業組合連合会理事）

第 54 回評議員会並びに第 101 回理事会

月日：11 月 13 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 25 年度上半期事業報告並びに決算報告」

第 2 号議案 「平成 25 年度下半期事業」

第 3 号議案 「平成 26 年度子どもゆめ基金への申請」

第 4 号議案 「役員の一部交代案」

- ◆ 大橋信夫 副理事長→舩坂良雄 副理事長（日本書店商業組合連合会会長）
舩坂良雄 常務理事→西村俊男 常務理事（日本書店商業組合連合会副会長）
郷田照雄 理事→山本高秀 理事（栗田出版販売社長）
＜新任＞本間守世 理事（日本書店商業組合連合会理事）
柳楽節雄 評議員→下川正志 評議員（家の光協会代表理事専務）

第 55 回評議員会並びに第 102 回理事会

月日：3 月 14 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 25 年度事業報告並びに決算報告見込」

第 2 号議案 「平成 26 年度事業計画案」

第 3 号議案 「平成 26 年度収支予算案」

第 4 号議案 「一部役員の交代案」

- ◆ 南雲隆男 理事→大竹深夫 理事（大阪屋社長）
高納勝寿 評議員→牧 秀幸 評議員（主婦と生活社常務取締役）
坂井宏先 評議員→奥村 傳 評議員（ポプラ社代表取締役）

（以上、役職は当時）

事業報告

1. 生涯学習事業

第 21 期「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

読書を通じた生涯学習・読書活動の推進のため、随時カリキュラムを更新し、常に「本」「読書」の魅力を掘り下げる多彩な講座内容を提供しています。

新カリキュラムとなって7年目の25年度も引き続き、監修にライター・書評家の永江朗氏を迎えました。執筆・講師陣には現在第一線で活躍されている方々にご協力いただきました。今年度はテキストも改訂し、一部テキストは新たに電子媒体による配布を試みるなど、さらに充実した内容となりました。また、オプションルツアーや希望者のみの装丁実習は、いずれも定員以上の申込があり、受講生の期待の高さがうかがえました。



平成25年7月から26年1月まで、6ヶ月にわたるレポート作成とスクーリングを経て、1月27日に行われた修了式では、作家の角田光代氏の記念講演（聞き手：永江氏）が行われ、「読書と私」と題して、読書の魅力や自身の読書体験についてお話いただきました。

修了式では、来賓の日本書籍出版協会 相賀昌宏理事長、日本書店商業組合連合会 船坂良雄会長から激励の祝辞を賜りました。

第21期の修了生は96名です。北海道から福岡県までの各地に、新たなJPIC読書アドバイザーが誕生し、修了生は累計約2,100名となりました。（受講料：一般58,000円 JPIC賛助会員53,000円）



＜スクーリング スケジュール一覧＞

講座	日程	カリキュラム	講師
スクーリング①	2013 年 7 月 12 日(金)	開講式 総 論 JPIC 概要 読書の歴史 アドバイザー活動紹介	永江 朗 中泉 淳 津野海太郎 伊東絵梨 松井恭子
スクーリング②	2013 年 7 月 13 日(土)	グループディスカッション 出版流通 編集者が語る本ができるまで	永江 朗 佐藤誠一郎
オプションルツアー	2013 年 7 月 14 日(日)	見学会(日比谷図書文化館、印刷博物館)	
オプションルツアー	2013 年 9 月 6 日(金)	見学会(国立国会図書館、日本出版販売王子流通センター)、紙芝居講座(童心社)	
スクーリング③	2013 年 9 月 7 日(土)	雑誌編集 本の情報 グループディスカッション	雨宮秀樹 永江 朗
スクーリング④	2013 年 9 月 8 日(日)	印刷の歴史と現在 本のつくりや装丁について 書評の読み方書き方	中西秀彦 岡本幸治 豊崎由美
オプションルツアー	2013 年 11 月 1 日(金)	見学会(国立国会図書館、山陽堂書店&クレヨンハウス) 装丁実習 書評講座	永江 朗 岡本幸治 豊崎由美
スクーリング⑤	2013 年 11 月 2 日(土)	古書の世界の奥深さ 身近な古本の楽しみ方	樽見博 岡崎武志
スクーリング⑥	2013 年 11 月 3 日(日)	図書館の役割、国内外の図書館の具体例 書店、本の町づくり 電子書籍	大串夏身 南陀楼綾繁 佐藤雄一 西村史之 植村八潮
オプションルツアー	2014 年 1 月 25 日(土)	見学会(小宮山書店、ボヘミアンズ・ギルド、大屋書房) 〃(信愛書店、颯爽堂、ブックスルーエ、トムズボックス)	岡崎武志 永江 朗
スクーリング⑦	2014 年 1 月 26 日(日)	児童文学とは 乳幼児～児童期の読書傾向 グループディスカッション	角野栄子 佐々木宏子
スクーリング⑧	2014 年 1 月 27 日(月)	文字・活字文化の振興策 まとめ 記念講演 修了式、懇親会	肥田美代子 永江 朗 角田光代

※スクーリング毎に 10～20 人ずつ「本のはなし」（実習）と「レポートについての説明」（永江朗氏による）を実施。

＜第 21 期受講生 属性一覧＞

男女計	男性	女性
100	15	85

年代別	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
100	13	24	29	24	10

地域別計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
100	1	5	61	9	1	10	6	2	4	1	0

職業別	図書館	書店	出版社	出版関係	取次会社	公務員
	28	12	6	3	6	1
100	主婦	自営業	教員	学生	会社員	その他
	15	3	10	1	2	13

②「JPIC 読書アドバイザー養成講座修了生向け ブラッシュアップ講座」

「JPIC 読書アドバイザー養成講座」修了者からニーズの高い「職域別・地域別の活動」

「レベルアップ」のサポートのため、第 1 期～20 期まですべての修了生を対象に、大阪と米子で「ブラッシュアップ講座」を実施いたしました（大阪：11 月 10 日実施、参加者 51 名 於・大阪科学技術センター。米子：2 月 23 日実施、参加者 34 名、於・米子コンベンションセンター）。



講師として当養成講座の監修を務めるライター・書評家の永江朗氏、ブックコーディネーターの内沼晋太郎氏を迎え、米子ではさらに元福音館書店社長である塚田和敏氏にご登場いただき、講義だけでなく 3 グループに分かれての分科会を行い、参加者との活発な意見交換も行われました。

③「JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)」の活動支援

平成 5 年より開講している「JPIC 読書アドバイザー養成講座」の修了生は、平成 25 年度末で約 2,000 名となりました。修了生は自主運営組織「JPIC 読書アドバイザークラブ (JRAC)」を組織して、活発に活動しています。平成 21 年 11 月には、読書推進運動協議会創立 50 周年を記念した「野間読書推進特別賞」を受賞しました。

JRAC の主な活動としては、自主グループでの「学習会の開催」、「JRAC 通信の発行」「会員用ホームページでの情報交換」など、多岐にわたります。また全国には、身近な会員のつながりを活かす地域支部が 12 支部あり、交流しています。

JPIC としてもさらに JRAC の活動機会を広げるため、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」での読みきかせ講義講師、講談社「全国訪問おはなし隊」や「スミセイおはなしひろば」でのボランティア向け学習会での講師など、主催・協力事業での講師のほか、各種団体開催の講師依頼や問い合わせにも対応し、おはなし会の読み手も依頼しています。

また、『この本読んで！』では毎号、JRAC 会員がおはなし会プログラムや新刊紹介などを担当し、読者から人気のコーナーとなっています。（JRAC 会員：672 名、25 年度末現在）

④各種読書講習会

JPIC 読みきかせサポーター講習会

読みきかせボランティアの育成を目的として、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」を平成 11 年より開催しています。絵本作家の講演と、JPIC 読書アドバイザーによる実技講習で、すぐ活動に生かせる講習会と好評でリピーターも多く参加しています。平成 23 年度より一般社団法人生命保険協会の協賛をいただき、より充実した内容で参加いただきやすくなりました。



（実施：18 ヶ所 参加者：1,697 名、参加費：1,000 円）

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会 場	特別講演講師	申込者数	参加者数
1	6 月 29 日	豊島区	サンシャイン会議棟	ひろかわさえこ	194	146
2	7 月 15 日	郡山市	ビッグパレット	いとうひろし	131	107
3	7 月 20 日	熊本市	国際交流会館	とよたかずひこ	87	80
4	8 月 3 日	旭川市	大雪クリスタルホール	ひろかわさえこ	72	66
5	8 月 31 日	大阪市	大阪国際会議場	高畠純	270	179
6	8 月 31 日	石巻市	河北総合センター	とよたかずひこ	87	74
7	9 月 14 日	高知市	県民文化ホール	浜田桂子	59	49
8	10 月 12 日	金沢市	文教会館	長野ヒデ子	81	68
9	10 月 19 日	奈良市	県新公会堂	とよたかずひこ	145	108
10	10 月 26 日 延期 3 月 2 日	日立市	シビックセンター	ひろかわさえこ	99	58

11	10月27日	松山市	県民文化会館	長野ヒデ子	115	82
12	11月16日	広島市	国際会議場	山口マオ	140	107
13	11月24日	盛岡市	アイーナ	浜田桂子	93	82
14	11月30日	名古屋市	ウィンクあいち	ひろかわさえこ	258	134
15	12月7日	千葉市	クロスウェーブ幕張	高畠純	200	88
16	2月1日	佐賀市	佐賀市民会館	ひろかわさえこ	125	95
17	2月8日	岐阜市	岐阜産業会館	いとうひろし	127	93
18	2月15日	京都市	烏丸コンベンションセンター	長野ヒデ子	182	81
合計					2,465	1,697

読みきかせサポーター実践講座～ステップアップ編

21年度から、読みきかせ活動の経験者を対象にスキルアップのための講座を開催しています。講義とグループディスカッションを行い、おはなし会の運営方法、子どもの読書推進の現状などを幅広く学び、地域の読書推進活動の核となる人材を育成するための講座です（実施：5会場、参加者：512名、参加費2,000円）。5年目で全国23会場にて開催いたしました。



■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	申込者数	参加者数
1	7月27日・28日	徳島市	とくぎんトモニプラザ	119	105
2	9月28日・29日	米子市	国際ファミリープラザ	78	63
3	10月5日・6日	札幌市	TKP 札幌カンファレンスセンター	131	117
4	12月14日・15日	仙台市	TKP 仙台カンファレンスセンター	153	105
5	1月18日・19日	新宿区	研究社英語センター	245	122
合 計				726	512

平成25年度末で「サポーター講習会」は累計335回、延べ参加者31,867名となりました（「JPIC 読みきかせサポーター講習会」、「読書サポーター講習会」、「読みきかせサポーター実践講座～ステップアップ編」「子どもの本講習会」を含みます）。

10代の読書会

平成21年から始まった中高生向けの読書会は、読書好きの10代が、一冊の本について互いの意見を交換することで、今後の読書の幅を広げ・深めることを期待して開催しています。

二部構成で、第一部は課題図書を中心に、自由に本の話をする読書会、第二部は、作家の講義としています。毎回、作家との会話を楽しみにしている参加者が多く、熱心に話を聞きメモを取り、次々に質問をする様子がうかがえました。



■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	作家	申込者数	参加者数
1	6月16日	京都市	FUTABA+ 京都マルイ	綿矢りさ	61	39
2	10月13日	千代田区	マルノウチリーディングスタイル	森 絵都	70	52
3	2月23日	千代田区	三省堂書店カフェコンフォート	小路幸也	39	32
合 計					170	123

ブックトーク講座～本を知る、出会う

小学校高学年から中高生に向けて読書推進を行っている方を対象に、児童文学者・翻訳家による基調講演、JPIC 読書アドバイザーによるブックトーク講習と実演を交えて、講習会を行いました。中高生の参加も呼びかけました。（実施：5会場、569名の参加、内学生10名。参加費1,000円、学生無料）

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	基調講演	申込者数	参加者数
1	9月15日	名古屋市	栄ガスビル	さくまゆみこ	176	135
2	10月20日	福岡市	電気ビル共創館	金原瑞人	128	103
3	11月17日	仙台市	TKP 仙台カンファレンスセンター	菱木晃子	110	89
4	12月1日	新宿区	研究社英語センター	濱野京子	194	146
5	2月1日	神戸市	ラッセホール	福本友美子	175	96
合 計					783	569

※平成17年度より開催し、累計33回、延べ参加者3,285名となりました。

10代から出会う翻訳文学案内

東京大学教授・沼野充義先生をホストに、第一線で活躍する作家・文学者をゲストに迎え、10代の若者を対象に、〈世界文学〉の視点で新しい読書の提案を行う講座を3回連続にて開催しました。10代だけでなく、若者に本を手渡す立場の方々の参加もありました。23年度までの講座内容をまとめた対談集が『やっぱり世界は文学でできている』として光文社より刊行されました。



■共催：光文文化財団

■協力：東京大学現代文芸論研究室、光文社

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	ゲスト	申込者数	参加者数
1	11月9日	渋谷区	長井記念ホール	加賀乙彦	117	77
2	12月7日	新宿区	安与ホール	谷川俊太郎、田原	244	150
3	2月2日	新宿区	安与ホール	辻原登	237	114
合 計					598	341

⑤さまざまな層への読書アプローチ

大学生のための読書講座

「大学生のための読書講座」は、大学生によく読まれている本の作家を講師に招き、その作家の著書について参加者同志が自由に意見を交わし合います。大学生が講師にインタビューをする時間も取り、作品の誕生秘話や作家本人の読書体験など、話題に上った作品や作家の著書をより深く読むことに繋がる話を聴くことができました。今年度は、鹿児島県であさのあつこ氏、宮城県で大沼紀子氏を迎えて開催しました。（共催：大学生協連合、読売新聞社）

	日程	開催地	会場名	作家	申込者数	参加者数
1	6月23日	鹿児島市	鹿児島大学郡元キャンパス	あさのあつこ	58	43
2	12月1日	仙台市	大学生協 仙台会館	大沼紀子	32	28
合 計					90	71

大学読書人大賞

19 年度よりスタートした「大学読書人大賞」が第 7 回を迎えました。大学文芸部（サークル）に所属する大学生有志で実行委員会を組織し、企画・実施のほとんどを行っています。

25 年 4 月 21 日に明治大学リバティータワーにて第 7 回の公開討論会を開催し、大賞は野尻抱介著『南極点のピアピア動画』（ハヤカワ文庫 JA）に決定しました。



6 月 7 日には、日本出版クラブ会館にて、受賞作家である野尻氏を招き、贈賞式と立食交流会を開催いたしました。計 140 名の学生と 30 名の出版・報道関係にお集まりいただきました。

企画・実施内容の詳細は、<http://www.jpcc.or.jp/dokushojin/>で公開しています。また、大学生実行委員によるブログとツイッターも逐次更新中です。

2. 調査研究事業

「消費税軽減税率適用」に関する意見広告

25 年 12 月 5 日・6 日、新聞複数紙に「出版物に対する消費税軽減税率適用」に関する意見広告を出稿いたしました。これは、「軽減税率適用の必要性を広く国民に理解していただくための取り組み」の一環として、26 年 4 月からの消費税増税に向けて行ったものです。

「世界には、書籍・雑誌、新聞に対し『軽減税率』を適用している国が数多くあります。出版物は、民主主義の発展・維持に不可欠な公共財であり、情報や知識に課税することは、その国の文化を衰退させることになると考えられているからです。私たちは、消費税増税により、とりわけ子どもたちの読書機会が損なわれることを強く懸念しています」という趣旨です。新聞出稿の他にも、26 年 2 月には 5 団体連名で同趣旨のポスターを作成し、取次各社の協力のもと、全国 10,000 書店にポスターを配布しました。また、出版社の協力のもと、雑誌誌面への PR 掲載など行っております。



3. 情報提供事業

「JPIC NEWS LETTER」の発行

賛助会員の皆様に毎月 1 回、財団事業の報告のため「JPIC NEWS LETTER」を発行しています。掲載内容についてのお問い合わせ、財団運営に対するアドバイスをいただくなど財団事業へ反映させています。25 年度中に 12 号を発行し、通巻 157 号となりました。



JPIC ホームページ

財団事業の活動を幅広く紹介し、活動スケジュールなどをいち早く提供するため平成 10 年 2 月よりホームページを公開しています (<http://www.jp-pic.or.jp/>)。

JPIC 事業だけでなく、本に関するイベント情報も掲載しています。特に 4 月・5 月の訪問数が多くあり、年度当初に公開する講習会予定をホームページで確認する方が増えています。

また、講習会・イベントの参加申込ツールとして web との連動が好調です。web 申込者には、「JPIC 読書推進メールマガジン」を配信し、全国のボランティアに講習会やイベント情報を配信しています。(25 年度末 メールマガジン読者：10,486 名)



季刊誌『この本読んで！』の発行

JPIC の読書推進運動への協力者との情報交換・情報提供のため、季刊誌「この本読んで！」を平成 13 年 11 月に創刊（事業協力：博報堂）。

絵本や読みきかせ活動の情報を中心に、〈JPIC 読書アドバイザー〉選・おはなし会プログラムや毎号 100 冊の新刊絵本の紹介など、おはなし会に役立つ多彩な内容を見やすいカラー誌面で構成しています。また、毎号の表紙と中綴じ絵本は絵本作家の描きおろし作品を使用。平成 26 年 2 月には創刊から 50 号を迎えました。

読書ボランティアの購読とともに、公共図書館・学校図書館からの購読が増えており、9,000 部発行しています。

発行形態	発行：年4回（5月、8月、11月、2月） 形態：A4変形・88ページ	
掲載記事	47号 13年夏号	特集：夏休みは原画展を見に行こう！／10歳から15歳に出会っておきたい本 こんにちは！絵本作家さん さとうわきこさん
	48号 13年秋号	特集：ケイト・グリーナウェイ賞／子どもたちの笑顔が集まる学校図書室 こんにちは！絵本作家さん 村上康成さん
	49号 13年冬号	特集：赤ちゃん絵本大集合／初めてみませんか ブックトーク入門 こんにちは！絵本作家さん 鈴木まもるさん
	50号 14年春号	特集：長新太の世界へようこそ！ 50号記念特集①：これで安心、おはなし会の著作権 50号記念特集②：読みきかせとともに歩んだ12年
購読料	・定期購読（4冊）：4,200円（送料無料で、税込） ・バックナンバー：1,200円（送料・税込）	



47号



48号



49号



50号

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

書店も図書館もない地域に読書機会を提供する「地域読書環境整備事業」で、自治体のモデル読書施設開設・運営に協力しています。25年度末に営業しているのは北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」で、25年10月に開設20周年を迎えました。

これまでの設置は、5市町村で、大分県耶馬溪町「わかば」（平成4年5月開設・平成20年3月31日閉店）、岩手県大船渡市「ブックワールド椿」（平成4年10月開設・平成23年3月閉店、開設時は三陸町）、北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」（平成5年10月開設）、福島県飯舘村「ほんの森 いいたて」（平成7年2月開設、平成23年6月15日休業）、長野県東御市「ブック童夢みまき」（平成8年7月開設、開設時は北御牧村・市町村合併により平成23年度で閉店）です。

東京電力福島第一原子力発電所の事故により全村避難している飯舘村とは、避難先での読書環境づくりに協力しています。※具体的な活動は、「⑦東日本大震災被災地支援」の項目をご参照ください。

②東淀川区絵本読み聞かせ事業

大阪市東淀川区からの受託事業として、大阪府書店商業組合（受託事業者）とおはなしボランティア「とことこ」・JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）関西支部・JPIC が協働し、地域における読み聞かせの定着、子どもの読書習慣の確立を目指しました。

25 年度は、事業開始初年度のため、①地域の登録ボランティアの募集・登録・育成、②区内希望施設へのボランティア派遣、③事業に活用するための寄贈絵本の募集（「絵本バンク」）④地域での広報活動に力を入れました。



26 年 2 月 2 日には、年度末の事業報告を兼ねた「東淀川えほんまつり」を開催しました。村中李衣さんによる講演会、絵本パフォーマー岸田典大さんの絵本ライブ、絵本展、登録ボランティアの読みきかせなど、区の内外から 200 名以上が来場し、イベントを楽しみました。

	イベント	日程	会場	参加者数
1	絵本バンク・第 1 期	7 月 2 日～12 日	東淀川区役所	—
2	読み聞かせ講習会・入門編①	7 月 31 日	東淀川区民会館	59 名
3	絵本バンク・第 2 期	10 月 1 日～7 日	東淀川区役所 出張所	—
4	読み聞かせ講習会・入門編②	10 月 31 日	東淀川区民会館	49 名
5	読み聞かせ講習会・中級編	11 月 26 日	東淀川区役所	42 名
6	東淀川えほんまつり	2 月 2 日	クレオ大阪北	述べ 200 名

●登録ボランティア数...99 名

●ボランティア派遣回数...75 回 / 子ども 1,566 名、大人 1,239 名参加（延べ数）

●絵本バンク寄贈数...637 冊

③第 14 回「上野の森 親子フェスタ」の開催

「2000 年子ども読書年」を記念して開催した「上野の森 子どもフェスタ」、翌年から「上野の森 親子フェスタ」として拡充開催しています。

平成 25 年度も、前年に引き続き東日本大震災の被災地支援プログラムとして開催し、売上の一部を被災地の子どもたちの読書環境を支援する活動に充当しました（開催：25 年 5 月 3 日～5 日）。

■主催：子どもの読書推進会議、JPIC

■後援：経済産業省、文部科学省、厚生労働省、国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)、
国立国会図書館国際子ども図書館、東京都教育委員会、台東区、読売新聞東京本社、
文字・活字文化推進機構

■協力：上野の山文化ゾーン連絡協議会、日本出版取次協会、日本児童図書出版協会、
日本国際児童図書評議会



上野恩賜公園中央噴水池広場の改修工事が終了し、これまでより広い面積を使用し、過去最高の出展者数 65 者・54 テントの出展にて「チャリティ・ブック・フェスティバル」を実施いたしました。また、同会場では常時、「全国訪問おはなし隊」（協力：講談社）キャラバンカー前特設会場やイベントテントにて出展各社協力によるおはなし会や紙芝居、出展社ブースでは絵本作家のサイン会などが行われ、親子連れに人気でした。

3 日間、晴天に恵まれ、売り上げは 3,230 万円超と、過去最大の盛況ぶりでした（第 13 回は 3,200 万円。初日、雨天中止のため）。

講演会も、東京国立博物館平成館大講堂を会場に 4 講演が行われ、約 1,600 名の親子・読者に読書の魅力やおはなしの楽しさを伝えました。

■ 出展社一覧 65 者（50 音順）

あかね書房	アリス館	いかだ社	一声社	岩崎書店
絵本塾出版	絵本の家	えほんの杜	偕成社	仮説社
学研	KIBABOOK	金の星社	くもん出版	クレヨンハウス
好学社	佼成出版社	講談社	国土社	子どもの未来社
ゴブリン書房	小峰書店	さ・え・ら書房	朔北社	集英社
主婦の友社	小学館	少年写真新聞社	瑞雲舎	鈴木出版
誠文堂新光社	世界文化社	全国農村教育協会	大日本絵画	大日本図書
汐文社	玉川大学出版部	童心社	徳間書店	長崎出版
西村書店	農文協	のら書店	パイ インターナショナル	
PHP 研究所	BL 出版	ひさかたチャイルド	評論社	ビリケン出版

福音館書店	富山房	フレーベル館	文溪堂	文研出版
星の環会	ポプラ社	ほるぷ出版	ミキハウス	民衆社
UD 絵本センター	理論社	国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)		
JPIC「この本読んで！」		子どもたちへくあしたの本>プロジェクト		
WISHMARK				

■講演会 平成館大講堂（定員 380 名）

日	タイトル	出演者(敬称略)	申込数	入場数
3 日 AM	「物語がはじまる時 ～魔法の庭にまかれたお話のタネ～」	あんびるやすこ (児童文学作家、画家)	1,195	247
3 日 PM	「青い鳥文庫スペシャル対談」	石崎洋司(児童文学作家) 池田美代子(児童文学作家)	807	226
5 日 AM	大友剛「マジックと音楽と絵本」の親子 LIVE ～『ねこのピート』出版記念公演～	大友剛 (ミュージシャン、マジシャン)	1,172	354
5 日 PM	「僕が絵本作家になった理由 ^{わけ} 」	たかいよしかず(絵本作家)	449	179
計			3,623	1,006

④「書店大商談会」への協力

第一回から第三回の好評を受け、10 月 9 日、ベルサール新宿グランドホールにて、第四回「書店大商談会」を開催しました（出展社：177 社・184 ブース、来場書店人数：808 名、商談成立：4,052 件、97,968,648 円／前回比 107%）。

第三回と比較し出展社が大幅に増え、過去最大規模での開催となりました。当日は来場書店人数に出展社、取次会社スタッフ、その他（見学）を

合わせると 2,149 名の業界関係者が集い、活発な商談や情報提供が行われました。

主催：同実行委員会／各取次書店会、東京都書店商業組合、取次各社。

実行委員長：奥村弘志・南天堂書房社長。事務局協力：JPIC)



関西では 11 月 8 日、大阪市・アウラホールにて、「BOOK EXPO 2013 秋の陣 ～動け！書店人～」を開催しました（出展：177 社、178 ブース、来場書店：839 名、商談成立：3,767 件、74,420,130 円／前回比 106.6%）。

三回目を迎える「BOOK EXPO」は、新たにコミックコーナーを設け、フロアを拡張して開催されました。ブースでも活気あふれる商談や情報提供が行われ、特に社員だけでなくパート・アルバイトの来場が多かったコミックコーナーは会場に入りきれないほどの盛況ぶりとなり、勉強会、イベントと好評で、来場書店人数は過去最高となりました。

主催：同実行委員会、世話人会代表：長谷川政博・ダイハン書房代表取締役社長、

代表幹事：萩原浩司・宮脇書店大阪柏原店代表取締役、事務局協力：JPIC



⑤「辞書を読む」プロジェクト

25 年より「辞書・日本語の魅力」を積極的に発信する「辞書を読む」プロジェクトをスタートさせ、店頭活性化、読書推進へとつなげていきます。

第一弾の取り組みとして、25 年 3 月には東京・大阪でトークショーを開催（共催：朝日新聞社、光文文化財団／光文社）。また全国 1,500 書店にて「辞書を読む」書店店頭フェアを開催いたしました。



25 年度は「辞書引き学習」提唱者の深谷圭助先生や、学者芸人のサンキュータツオ氏を講師に招き、トーハン「こどもの本ブックフェア」・日販「本と遊ぼうこどもワールド」にて計 6 回イベントを開催いたしました。

また、3 月下旬より、辞書出版社を中心とした出版社 10 社、取次会社の協賛・協力のもと全国 1,872 書店で第二回「辞書を読む」書店店頭フェア・飾付けコンクールを実施。昨年を大幅に上回る規模での開催となりました。（協賛：岩波書店、旺文社、学研、くもん出版、三省堂、集英社、小学館、ベネッセコーポレーション、光文社、朝日新聞出版／特別協賛：大日本印刷）

⑥「20 歳の 20 冊」

自治体から新成人に本を贈る事業です。25 年度は、23 自治体と中高一貫校 1 校で実施されました。

20 冊のブックリストは初年度から選書を担当していただいている、杏さん（女優、モデル）、永江朗さん（ライター、大学教授）に加え、内田恭子さん（キャスター）、為末大さん（陸上選手）、柳田邦男さん（ノンフィクション作家、評論家）の選者 5 名が選んだ新た

な 20 冊を選評とともに冊子にまとめ、そのうち 1 冊を新成人自身が選ぶ仕組みです。自治体は書籍を定価で購入し、書籍の納品は地元の書店組合または組合加盟店が行います。

平成 25 年 8 月実施

	都道府県	自治体名	日程	新成人数	
1	秋田県	男鹿郡東成瀬村	8 月 15 日	19	初
2	群馬県	多野郡上野村	8 月 15 日	12	2 年目
3	長野県	南佐久郡南相木村	8 月 15 日	13	4 年目
4		下伊那郡平谷村	8 月 16 日	5	2 年目
5	鳥取県	日野郡日野町	8 月 15 日	42	4 年目
6	広島県	神石郡神石高原町	8 月 15 日	110	2 年目
合計 6 自治体				201	

平成 26 年 1 月実施

1	北海道	真狩村	1 月 12 日	18	4 年目
2		中頓別町	1 月 12 日	12	3 年目
3		佐呂間町	1 月 12 日	58	2 年目
4		比布町	1 月 12 日	30	初
5	福島県	飯舘村	1 月 12 日	50	初
6		大熊町	1 月 12 日	124	4 年目
7	茨城県	大子町	1 月 12 日	255	5 年目
8	静岡県	藤枝明誠高等学校	1 月 5 日	41	3 年目
9	岐阜県	白川町	1 月 12 日	115	4 年目
10		高山市朝日支所	1 月 2 日	25	4 年目
11	鳥取県	南部町	1 月 12 日	101	3 年目
12		日吉津村	1 月 3 日	26	5 年目
13		邑南町	1 月 3 日	102	4 年目
14	高知県	大豊町	1 月 12 日	30	4 年目
15		田野町	1 月 3 日	23	4 年目
16		安田町	1 月 3 日	32	3 年目
17		越知町	1 月 3 日	74	4 年目
18	沖縄県	与那国町	1 月 2 日	22	2 年目
合計 17 自治体、1 校				1,138	

平成 25 年度合計 24 自治体、1 校 対象新成人数 1,339 名

東京電力第一原発の事故により全村民避難を余儀なくされている福島県飯舘村や大熊町でも当企画が採用され、1 月 12 日の成人式で本が手渡されました。



⑦東日本大震災被災地支援

震災から 3 年が経過し、復興が少しずつしか進まない一方で、支援のボランティア活動が減っているという被災地の現状があります。JPIC では、出版業界・自治体・団体・企業と協力しながら、中長期的な支援活動に取り組み続けます。

◆絵本作家らによる文士劇「てくてく座」公演

4 月 13 日、宮城県塩竈市・遊ホールにて昼夜 2 回公演を開催いたしました。飯野和好さんを座長に、あべ弘士さん、中川ひろたかさん、長野ヒデ子さん、ささめやゆきさんなど、人気絵本作家ら 15 名が集結し繰り広げた、笑いと人情のあふれる舞台に、350 名を超える観客で会場は大盛り上がりでした。



入場料収益は前年 9 月に東京で開催した第 1 回公演分と合わせ、「てくてく文庫」として被災地の子どもたちの施設に図書を寄贈しています。寄贈にあたっては、出演した絵本作家が訪問し、おはなし会を開催して子どもたちと触れ合う機会を設けており、25 年度は 11 か所に寄贈しました。

また、仙台市の被災地支援団体「こどもとあゆむネットワーク」（代表：仙台「横田や」店主 横田重俊）の呼びかけに応え、石巻市立北上小学校に「日本一！楽しい図書室」を作るプロジェクトにも参加しました。てくてく座の作家たちが、図書室の壁に画を描き、子どもたちと地元の方たちに喜んでいただきました。



◆福島県飯舘村支援

原発事故により全村避難している福島県飯舘村に対して、読書環境の充実のための支援を続けています。

飯舘村では、家族が世代ごとにばらばらに避難している状況の中、子育て世代の支援事業に



力を入れています。その一環として、平成 25 年 4 月以降に生まれる乳児に、木のおもちゃと読みきかせ用の絵本をプレゼントする「ウッdstart」&「ほんの森 ファーストブック」事業を開始いたしました。

6 月 4 日、JPIC 肥田理事長出席のもと、飯舘村との「子育て支援に関する協定書」調印式を行い、継続した支援を約束いたしました。集団移転先である福島市内のみならず、遠方に避難している住民にも同様に支援の絵本が届けられます。JPIC は、25 年度に新生児 33 名に 74 冊の絵本を提供いたしました。

◆「子どもたちへくあしたの本>プロジェクト」

平成 23 年 5 月から「子どもたちへくあしたの本>プロジェクト」として、日本国際児童図書評議会（JBBY）、日本出版クラブとともに東日本大震災被災地の子どもたちの読書活動支援を継続展開しています。

主な活動として、①岩手県陸前高田市の私設図書館「にじのライブラリー」の運営、②宮城県気仙沼市・石巻市での「図書館バスの定期巡回」、③作家らの被災地訪問、④支援の必要な子どもたちへの布絵本や玩具寄贈などを行っています。



【平成 25 年度 子どもたちへくあしたの本>プロジェクト 活動カレンダー】

4 月 11 日	「野馬追文庫」送付（南相馬市仮設住宅集会所への支援。毎月 1 回定期送付）	福島県南相馬市 36 か所に増加
4 月 13 日・ 14 日	移動図書館バス 7&i グループ店舗定期巡回再開 ＜以降、第 2・4 土日、12 月末まで巡回＞	宮城県気仙沼市・ 石巻市の計 4 店舗
4 月 21 日	東松島・石巻訪問 講師:アレックス・デ・ヴォルフさん、野坂悦子さん	石巻専修大学
4 月 27 日	だいじょうぶだよセット送付	福島県 1 箇所
5 月 24 日	第 2 弾チャリティ・オークション展示会(特設 web サイトにて 6 月 30 日まで実施、寄付金 333 万円)	
9 月 29 日	東松島・石巻訪問 講師:小林豊さん、さくまゆみこさん	東松島市図書館 石巻市立湊小学校
9 月	だいじょうぶだよセット送付	福島県 1 箇所
10 月 13 日	石巻訪問 講師:末吉暁子さん、垂石眞子さん	イトーヨーカドー 石巻あけぼの店

12月22日	図書館バス年内最終運行(～23日。1月～3月は冬季休業、協力：セブン&アイ・ホールディングス)貸出冊数 2,174 冊(4月～12月)	気仙沼・石巻 計 4 店舗
12月22日	気仙沼・大船渡訪問(～23日) 講師：押川理佐さん	気仙沼仮設住宅集会所 気仙沼宮脇書店 大船渡ブックボーイ
12月27日	南相馬訪問 講師：武田美穂さん、野坂悦子さん	南相馬子育て支援 センターかのん
3月1日	陸前高田訪問 講師：桂扇生さん	長部漁村センター

5. 受託事業・業務等

①読書普及活動協力事業

読書普及活動の活性化に向けて各社が取り組む各事業に対し、「JPIC 読書アドバイザー」「JPIC 読みきかせサポーター」「地元の読書サークル」にボランティア参加の募集を呼びかけ、読みきかせを開催する会場への読み手のコーディネートを行っています。

ア) 全国訪問おはなし隊

講談社が創業 90 周年読書推進事業として平成 11 年 7 月よりスタートさせた「全国訪問おはなし隊」は、平成 25 年 9 月から 8 巡目を走行中です。全国の保育園、幼稚園、図書館、公民館、児童館、書店などをキャラバンカーで巡回し、地域の読書ボランティアの協力による絵本の読みきかせや紙芝居を通じて、子どもたちに本との出会いを提供しています。(25 年度：1,173 会場 累計実績：17,004 会場)

イ) おはなしマラソン

日本出版販売は、子どもたちに物語の楽しさを伝え未来の読者を育てていこうという試みから、書店読みきかせ会「おはなしマラソン」を平成 11 年 10 月より、全国で開催しています。JPIC では、ボランティアコーディネートの役割を担っています。(25 年度協力 10 店舗、累計実績：670 書店)

ウ) 取協読書推進事業「読みきかせ会」

日本出版取次協会は、平成 12 年秋に創立 50 周年記念行事として「読みきかせ会の開催」を実施しました。平成 12 年度からの成果を踏まえて本年度も「読書推進」「書店店頭での活性化・増売」「第 4 土曜日は、こどもの本の日」の拡充のため、書店における読みきかせ会を開催しました。(期間：平成 25 年 11 月 30 日～平成 26 年 3 月 8 日の毎週土曜日、JPIC コーディネート担当実施書店：41 書店)

②「スミセイおはなしひろば」への協力

公益財団法人住友生命健康財団は、平成 13 年度より、読書をとおした子どもの健全育成を目的として、子どもたちが「おはなしや本の楽しさ」に出会う機会をつくる「スミセイおはなしひろば」を実施しています。

その一環である「おはなしひろばキャラバン」は、希望する保育園・幼稚園に、オリジナル絵本をプレゼントし、大型絵本や紙芝居を交えたおはなし会を届けるものです。読み手に地域の読みきかせサークルをコーディネートしておはなし会を開催。保護者や地域の方のご参加も見られ、家族・地域間のふれあいのきっかけをつくる役割も担っています。

25 年度は 3 地域（6 月長野県長野市・松本市周辺、9 月宮崎県宮崎市周辺、11 月岡山県岡山市周辺）で開催し、7,660 名の園児が参加しました（25 年度実施：91 施設、累計実績：1,532 施設）。

③赤ちゃん本舗「赤ちゃん和妈妈のおはなし会」への協力

育児用品などの販売を手がける「赤ちゃん本舗」は、家庭でのコミュニケーションの発展と読書推進を目的として、店舗内のスペースを利用し、乳児・幼児・保護者を対象とした「赤ちゃん和妈妈のおはなし会」を実施しています。おはなし会を開催する店舗に、JPIC 読書アドバイザーやボランティアをコーディネートしています。25 年度は新規開催店舗が 9 店舗となり、規模を拡大しました（開催：毎月約 35 店舗）

④朝日新聞社への協力

◆「オーサー・ビジット・プロジェクト」

「オーサー・ビジット」は、朝日新聞社の読書推進運動として、11 年目を迎え、これまでに 350 を超す学校を訪問いたしました。

子どもたちに人気の作者が小・中・高校の教室を訪問し、作者独自の愉快的授業や対話により、読書意欲を喚起することを目的としています。

平成 25 年度は、ベルマーク運動に参加している学校に費用を一部負担いただくベルマーク版も含め、全国 22 校に訪問し、子どもたちの笑いがあふれる授業を展開しました。

JPIC は事務局として協力し、応募校の受付や作家と学校の訪問スケジュール・旅程作成などの役割を担っています。

※ベル＝ベルマーク版 5 回



撮影：首藤幹夫

	訪問日	訪問地	学校名	作家名
1	9月19日(金)	和歌山県	和歌山県立田辺高等学校	菅田哲也(作家)
2	9月30日(月)	埼玉県	行田市立荒木小学校	池上彰(ジャーナリスト)
3	10月4日(金)	栃木県	栃木県小山高等学校	鷲田清一(哲学者)
4	10月9日(水)	京都府	京田辺市立田辺小学校	盛口満(生物研究家)
5	10月15日(火)	徳島県	阿波市立柿原小学校	近藤良平(ダンサー・振付家)
6	11月6日(水)	東京都	筑波大学附属駒場中・高等学校	百田尚樹(作家)
7	11月11日(月)	愛知県	名古屋市立桜台高等学校	辻村深月(作家)
8	11月13日(木)	静岡県	藤枝明誠高等学校	谷川俊太郎(詩人)
ベル	11月21日(木)	茨城県	土浦市立土浦第三中学校	尾木直樹(教育評論家)
9	11月27日(水)	岡山県	高梁市立富家小学校	香川元太郎 (絵本作家・イラストレーター)
10	11月28日(木)	徳島県	三好市立池田中学校	福本友美子(翻訳家)
11	12月6日(金)	香川県	丸亀市立岡田小学校	富安陽子(児童文学作家)
12	12月10日(火)	長崎県	諫早市立小野中学校	石川直樹(写真家)
ベル	12月10日(火)	秋田県	横手市立朝倉小学校	宮西達也(絵本作家)
13	12月11日(水)	島根県	奥出雲町立三沢小学校	工藤直子(詩人)
ベル	12月12日(木)	福岡県	春日市立春日野小学校	朝原宣治(北京五輪メダリスト)
14	12月12日(木)	広島県	神石高原町立神石中学校	仲道郁代(ピアニスト)
15	12月13日(金)	大阪府	河内長野市立楠小学校	鈴木のりたけ(絵本作家)
ベル	12月17日(火)	鹿児島県	大口明光学園中学校・高等学校	山崎直子(宇宙飛行士)
16	12月17日(火)	福岡県	嘉麻市立大隈小学校	長谷川義史(絵本作家)
17	12月19日(木)	東京都	文京区立音羽中学校	原ゆたか(児童書作家・画家)
ベル	1月28日(火)	長野県	長野市立吉田小学校	桂文我(落語家)

◆第4回どくしょ甲子園

「どくしょ甲子園」とは、高校生を対象にした読書会コンクールで、仲間と読書会を開いて発見した「一冊の本の魅力」を、文章とイラストで一枚の紙(＝どくしょボード)に表現した作品を応募してもらい、優秀作品を顕彰します。

第4回は、600枚を超える“どくしょボード”が全国から寄せられ、5名の選考委員(*)が審査し、最優秀賞ほか5作品に賞を送りました。

□最優秀賞 (1点)

大阪市立工芸高・清水チーム 梶井基次郎 著『檸檬』

□優秀賞 (2点)

福井県立科学技術高・楠チーム アントニイ・バージェス 著『時計じかけのオレンジ』

東京成徳大学高・味田チーム 村上春樹 著『海辺のカフカ』

□奨励賞 (3点)

山形県立山形北高・海谷チーム 梨木香歩 著『西の魔女が死んだ』

山村学園高・菊池チーム 大江健三郎 著『死者の奢り』

渋谷教育学園渋谷高・林チーム 小路幸也 著『キサトア』



＊選考委員：秋田喜代美（教育学者）、あさのあつこ（作家）、姜尚中（聖学院大学全学教授）、佐藤江梨子（女優）、道尾秀介（作家）



最優秀賞

⑤「第 47 回造本装幀コンクール」への協力

一般社団法人日本書籍出版協会、一般社団法人日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」は、47 回目を迎えました。

「第 47 回造本装幀コンクール」（募集期間 25 年 2 月 1 日～4 月 1 日）は、149 者 366 作品の応募がありました。4 月 26 日に審査会を行い、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、東京都知事賞をはじめとする各賞（全 22 賞）を決定しました。入賞作品及び全出品作品は第 20 回東京国際ブックフェア（7 月 3 日～6 日、東京ビッグサイト）内の特設ブースにて展示され、7 月 5 日には同セミナー会場にて授賞式を開催しました。また、入賞作品は、ドイツのフランクフルトブックフェアで展示された後、ライプツィヒで開催される“世界で最も美しい本コンクール”に日本を代表して出品しました。結果、第 47 回の入賞作『トットリッチ』が栄誉賞を受賞しました。昨年に引き続いて日本の作品が受賞しており、日本の造本・デザインが海外でも高く評価されています。

⑥生命保険協会 読みきかせによる“家族のきずな”推進活動

生命保険協会は、平成 20 年度より、「読みきかせを通じた“家族のきずな”推進活動」を展開し、一般公募による絵本コンテストや施設・団体への絵本寄贈を行ってきました。25 年度は、第二次 3 ヶ年計画の 3 年目として、JPIC 読みきかせ講習会への協賛と読みきかせボランティア団体の支援のため「“家族のきずな”読みきかせ会セット」の頒布を行いました。

また、被災地支援活動として、地元ボランティア団体と協力して“家族のきずな読み聞かせ会”を、宮城・岩手にて開催いたしました。JPIC は上記支援活動の事務局として協力しています。

⑦「21 世紀活字文化プロジェクト」協力

読売新聞社が主管する「活字文化推進プロジェクト」が展開する東日本大震災被災地支援活動「学校図書館げんきプロジェクト」に協力し、岡山にて「親と子の読み聞かせ会」を開催いたしました（4 月 28 日、講師：長谷川義史さん、後援：山田養蜂場）。JPIC は事務局として、講師調整・参加者募集などを協力いたしました。

スケジュール 1

スケジュール 2

スケジュール 3

スケジュール 4

一般財団法人出版文化産業振興財団 理事・監事・顧問

理 事 長	肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）
副理事長	相 賀 昌 宏（日本書籍出版協会理事長、小学館社長）
副理事長	石 崎 孟（日本雑誌協会理事長、マガジンハウス社長）
副理事長	古 屋 文 明（日本出版取次協会会長、日本出版販売会長）
副理事長	船 坂 良 雄（日本書店商業組合連合会会長、東京都） ※運営担当
専務理事	矢 作 孝 志
常務理事	高 井 昌 史（紀伊國屋書店社長）
常務理事	西 村 俊 男（日書連副会長、新潟県）
常務理事	藤 井 武 彦（トーハン社長）
常務理事	安 西 浩 和（日本出版販売専務取締役）
常務理事	野 間 省 伸（講談社社長）
常務理事	堀 内 丸 恵（集英社社長）
理 事	篠 弘（日本文藝家協会理事長）
理 事	今 野 由 梨（生活科学研究所所長）
理 事	高 橋 基 陽（光文社会長）
理 事	荻 野 善 之（主婦の友社社長）
理 事	平 尾 隆 弘（文藝春秋社長）
理 事	大 竹 深 夫（大阪屋社長）
理 事	山 本 高 秀（栗田出版販売社長）
理 事	風間賢一郎（中央社社長）

理 事	河 野 隆 史（日教販社長）
理 事	國 弘 晴 睦（太洋社社長）
理 事	正 能 康 成（トーハン専務取締役）
理 事	西 村 達 也（丸善 CHI ホールディングス社長）
理 事	松 信 裕（有隣堂社長）
理 事	柴 崎 繁（日書連副会長、東京都）
理 事	藤 原 直（日書連副会長、宮城県）
理 事	本 間 守 世（日書連理事、東京都）

以上 28 名

監 事	古 岡 秀 樹（学研ホールディングス取締役）
監 事	坂 井 光 雄（協和出版販売社長）
監 事	能 勢 正 幸（公認会計士）

以上 3 名

顧 問	上 瀧 博 正（トーハン顧問）
-----	-----------------

以上 1 名

平成 26 年 3 月 31 日現在

一般財団法人出版文化産業振興財団 評議員

秋 田 貞 美（秋田書店社長）

下 川 正 志（家の光協会代表理事専務）

宮 本 哲 男（岩波書店取締役）

今 村 正 樹（偕成社社長）

関 谷 幸 一（KADOKAWA常務取締役）

牧 秀 幸（主婦と生活社社長）

清 水 康 史（昭文社取締役）

松 田 宏（新潮社取締役相談役）

増 田 義 和（実業之日本社会長）

大 塚 茂（世界文化社専務取締役）

鈴 木 一 行（大修館書店社長）

鹿 谷 史 明（ダイヤモンド社社長）

岩 淵 徹（徳間書店社長）

溝 口 明 秀（NHK出版社長）

伊藤富士男（農山漁村文化協会専務理事）

大 橋 一 弘（博文館新社社長）

奥 村 傳（ポプラ社代表取締役）

斎 藤 健 司（日本書籍出版協会常任理事 読書推進委員会委員長、金の星社社長）

出版社：以上 18 名

齊 藤 隆 巳（日本雑誌販売社長）

伊 藤 聡（日本地図共販社長）

谷 川 直 人（トーハン取締役）

加藤真由美（トーハン広報室長）

金 田 徴（日本出版販売書籍部長）

岩 本 幸 子（日本出版販売経営戦略室長）

和 田 年 正（大阪屋取締役）

森 岡 忠 弘（栗田出版販売執行役員）

外 山 義 朗（中央社専務取締役）

山 去 賢 二（日教販監査役）

取次会社：以上10名

小 泉 忠 男（日書連副会長、東京都）

川 島 孝 文（日書連理事、埼玉県）

筒 井 正 博（日書連理事、神奈川県）

江 崎 直 利（日書連理事、静岡県）

東 浦 澄 夫（日書連理事、山梨県）

片 岡 隆（日書連理事、東京都）

亀 井 忠 雄（三省堂書店社長）

書店：以上7名

石 川 博 史（公文教育研究会取締役）

北 島 義 斉（大日本印刷副社長）

大 湊 満（凸版印刷専務取締役）

濱 田 博 信（日本図書普及社長）

一般：以上4名

以上39名

平成26年3月31日現在

平成 25 年度賛助会員(280 社)

平成 26 年 3 月 31 日現在

出版社

あかね書房	桐原書店	スターツ出版	東京堂出版
秋田書店	近代映画社	ステレオサウンド	東京ニュース通信社
朝倉書店	金の星社	すばる舎	童心社
朝日新聞出版	くもん出版	星雲社	東洋経済新報社
明日香出版社	研究社	聖教新聞社	徳間書店
あすなろ書房	建帛社	静山社	ドレミ楽譜出版社
アリス館	好学社	青春出版社	南江堂
家の光協会	恒星社厚生閣	西東社	南山堂
医学書院	佼成出版社	成美堂出版	二玄社
池田書店	講談社	聖パウロ女子修道会	日刊工業新聞社出版局
医歯薬出版	交通新聞社	誠文堂新光社	二宮書店
一声社	交通タイムス社	税務研究会	日本ヴォーグ社
1 万年堂出版	光文社	世界思想社教学社	日本カメラ社
今人舎	小峰書店	世界文化社	日本漢字能力検定協会
岩崎書店	コアミックス	セブン&アイ出版	日本経済新聞出版社
岩波書店	ゴルフダイジェスト社	創元社	日本実業出版社
WAVE 出版	さ・え・ら書房	増進堂・受験研究社	日本出版社
潮出版社	作品社	第三文明社	日本スポーツ企画出版
樫出版	産業図書	大修館書店	日本文芸社
NHK 出版	三オブックス	大日本図書	農山漁村文化協会
エムオン・エンタテインメント	三省堂	ダイヤモンド社	白水社
旺文社	サンマーク出版	大洋図書	白泉社
大泉書店	産総研研究所出版部経営書院	大和出版	博文館新社
宙出版	CQ 出版	大和書房	博友社
オーム社	実業之日本社	高橋書店	ぴあ
オレンジページ	実務教育出版	竹書房	PHP 研究所
音楽之友社	じほう	辰巳出版	ビーエル出版
偕成社	集英社	玉川大学出版部	ひかりのくに
海竜社	住宅新報社	淡交社	ひさかたチャイルド
化学同人	主婦と生活社	筑摩書房	日之出出版
学研ホールディングス	主婦の友社	地人書館	白夜書房
岳洋社	小学館	チャイルド本社	評論社
風間書房	祥伝社	中央経済社	フォレスト出版
柏書房	少年画報社	中央公論新社	福音館書店
KADOKAWA	昭文社	中日新聞社広告局	扶桑社
角川春樹事務所	神宮館	汐文社	富山房
金子書房	新興出版社啓林館	デアゴスティーニ・ジャパン	双葉社
河出書房新社	新星出版社	ディスカヴァー・トゥエンティワン	ブティック社
かんき出版	新潮社	東京書籍	プレジデント社
共立出版	晋遊舎	東京創元社	フレーベル館
	鈴木出版	東京大学出版会	文英堂

文化学園文化出版局
ぶんか社
文溪堂
文芸社
文藝春秋
文理
平凡社
ベースボールマガジン社
ベストセラーズ
ベネッセコーポレーション
ベレ出版
法学書院
法研
芳文社
ポプラ社
ほるぷ出版
毎日新聞社出版局
マガジンハウス
マキノ出版
三笠書房
みすず書房
光村教育図書
ミネルヴァ書房
モーターマガジン社
有斐閣
吉川弘文館
リイド社
リクルートコミュニケーションズ
理論社
ワニマガジン社
(出版社 193 社)

取次会社

大阪屋
協和出版販売
栗田出版販売
鍬谷書店
三和図書
太洋社

中央社
鉄道弘済会
東京即売
トーハン
日教販
日本雑誌販売
日本出版販売
日本地図共販
博文社
(取次会社 15 社)

書店

旭屋書店
今井書店グループ
オリオン書房
紀伊國屋書店
金港堂
三省堂書店
須原屋
多田屋
八文字屋
丸善CH I ホールディングス
有隣堂
リプロ
(書店 12 社)

書店組合

北海道書店商業組合
青森県書店商業組合
岩手県書店商業組合
宮城県書店商業組合
茨城県書店商業組合
栃木県書店商業組合
群馬県書店商業組合
埼玉県書店商業組合
神奈川県書店商業組合
愛知県書店商業組合
滋賀県書店商業組合
京都府書店商業組合
大阪府書店商業組合
兵庫県書店商業組合
鳥取県書店商業組合
広島県書店商業組合
愛媛県書店商業組合

福岡県書店商業組合
佐賀県書店商業組合
沖縄県書店商業組合
(書店組合 20 組合)

教科書供給所

北海道教科書供給所
群馬県教科書特約供給所
神奈川県教科書販売
愛知県教科書印刷業協同組合
(教科書供給 4 社)

一般

愛知陸運
お茶の水商事
活字文化推進会議
カンダコーポレーション
共同印刷
共立速記印刷
近代美術
工藤出版サービス
三和
出版共同流通
生命保険協会
総合教育センター
大日本印刷
太陽印刷工業
ダイワハイテックス
手島梱包輸送
天龍運輸
電通
東販自動車
トーハン従業員組合
図書館流通センター
凸版印刷
日販コンピュータテクノロジー
日本出版販売労働組合
日本図書普及
博報堂
文化産業信用組合
三井住友銀行神田法人営業第一部
三菱東京 UFJ 銀行神田支店
八木書店

山谷運送
りそな銀行九段支店
(一般 32 社)

関係団体

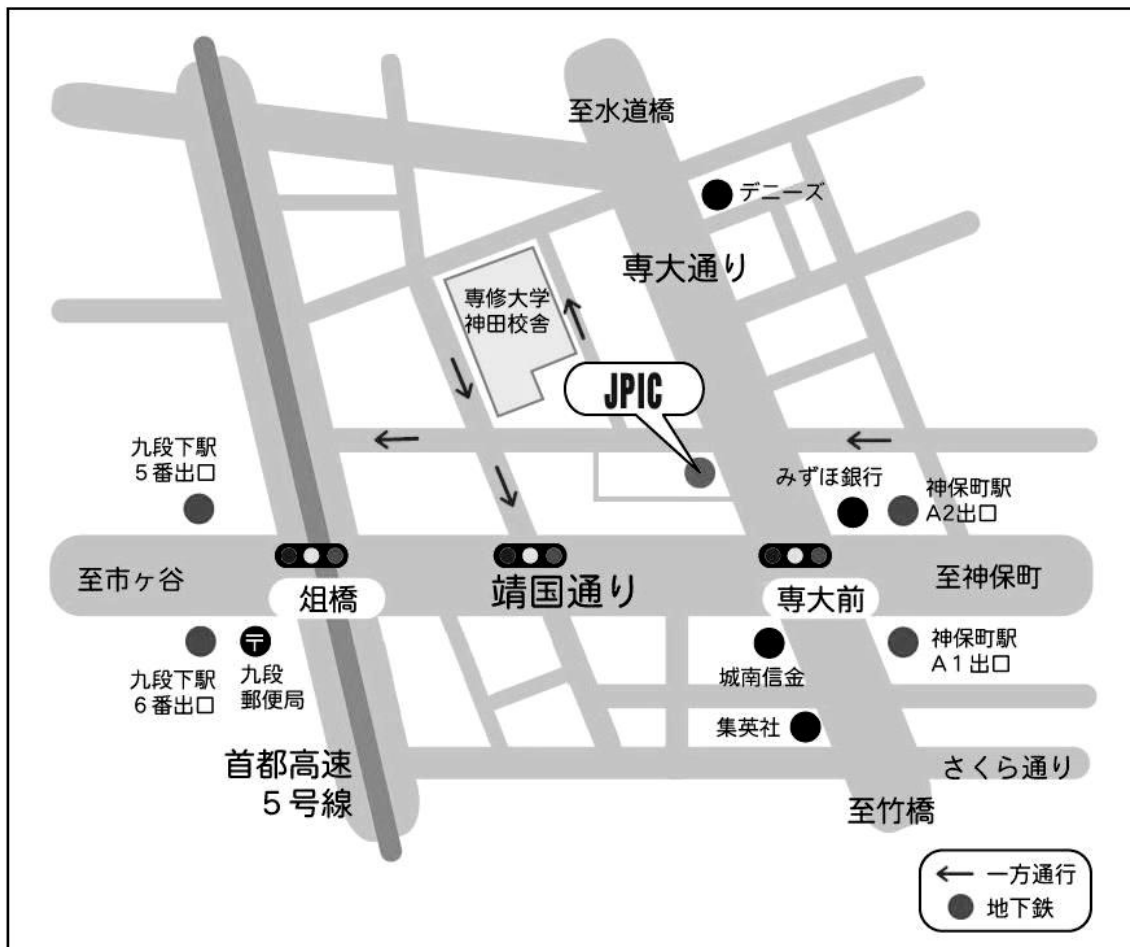
出版健康保険組合
日本児童図書出版協会
日本出版取次協会
日本書店商業組合連合会
(関係団体 4 団体)

以上、280 社

出版社	193 社
取次会社	15 社
書店	12 社
書店組合	20
教科書	4
一般	32
関係団体	4

財団案内図

- 名 称 一般財団法人出版文化産業振興財団
■所 在 地 〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3 神保町スリービル 8 階
TEL.03-5211-7282 FAX.03-5211-7285
<http://www.jpica.or.jp/>



交 通

九段下駅 6 番出口 徒歩 5 分（地下鉄／半蔵門線・東西線 都営／新宿線）

神保町駅 A1 出口 徒歩 2 分（地下鉄／半蔵門線 都営／新宿線・三田線）

水道橋駅 西 出 口 徒歩 7 分（J R／総武線・中央線）

※ 1 階が CVS「サンクス」のビルです。

平成 25 年度収支報告書及び財産目録

貸借対照表1

正味財産増減計算書 1

正味財産増減計算書 2

財産目録

収支計算書 1

収支計算書 2

収支計算書 3

収支計算書 4

財務諸表に関する注記 1

財務諸表に関する注記 2、収支計算書に対する注記 1

公益目的支出計画

監査報告書

平成 26 年度事業計画並びに予算

1. 生涯学習事業

①「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

平成 5 年のスタート以来、「読書と生涯学習をコーディネートする」人材の育成を目的に毎年開講している。第 22 期を受講生 100 名、修了聴講生若干名で開講する。

②「JPIC 読書アドバイザー養成講座」修了生へのアプローチ

約 2,000 名となった修了者を対象に、「ブラッシュアップ講座」を 2 ヶ所で開催する。

③JRAC の活動協力

修了者の自主運営組織である「JPIC 読書アドバイザークラブ (JRAC)」の活動を側面よりサポートする。学習会や読書関連催事の共催も検討する。

④絵本・読みきかせ・読書ボランティア・中高生向け 各種読書講習会

「JPIC 読みきかせサポーター講習会」「同 グループワーク編」「10 代の読書会」「翻訳文学講座」など計 41 回を計画。子どもゆめ基金助成事業。

⑤さまざまな層への読書アプローチ

「辞書プロジェクト」として、辞書を切り口とした読書推進事業を展開。子どもゆめ基金助成事業としてイベントを開催予定。

大学読書人大賞（同実行委員会との共催）、「大学生のよみとも倶楽部」（大学生協などとの共催）を年 2～3 回程度。

また、主に JPIC 読書アドバイザーと協力した新たな読書推進活動の取り組みを検討する。

2. 調査研究事業

①書店活性化・デジタル化研究

関係省庁・団体などとの協力で、JPIC としての役割を積極的に果たす。また、消費税増税対応の販売促進策等を提案する。

②関係機関や在日外国機関との協力事業

消費税軽減税率獲得への取り組みや、対諸外国向けの出版活動の展開について検証、実践を目指す。

3. 情報提供事業

①JPIC NEWS LETTER

賛助会員をはじめ、関係各方面に JPIC の活動を案内・報告することを目的に、月 1 回程度発行。

②ホームページ運用、メールマガジン発行

読書関連催事等の情報提供ツールとして活用。メールアドレス管理「読書ボランティア」15,000件を目標に促進。メルマガ会員を増加させ、他事業でのDM費の一層の減少を図る。

③「この本読んで！」発行

平成13年11月創刊、季刊（第51～54号、5・8・11・2月末）、9,000部発行。

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

福島県飯舘村、大阪市東淀川区等での協力事業を展開する。

また、「読書教育」「本・読書で町おこし」などの地域ぐるみの読書活動をサポートしていく。

②「上野の森 親子フェスタ」共催

5月3日～5日に上野恩賜公園にて開催する第15回「上野の森 親子フェスタ」を子どもの読書推進会議と共催する。中央噴水池広場では、読者謝恩価格によるチャリティ・ブック・フェスティバルを、講堂では読書関連講演を開催する。

③「書店大商談会」への協力

第一回「北海道書店大商談会」（9月11日、札幌市にて開催予定）、第五回「書店大商談会」（10月23日、文京区にて開催予定）、「BOOK EXPO 2014」（11月11日、大阪市にて開催予定）の事務局として協力。

④東日本大震災復興協力事業

JPIC単独としての活動のほか、日本国際児童図書評議会（JBBY）・日本出版クラブとの協力による「子どもたちへ＜あしたの本＞プロジェクト」での活動を通じて、被災地の読書活動支援を行う。

5. 受託事業・業務等

①各社・団体の読書普及事業への協力

「講談社全国訪問おはなし隊」など、団体・企業の読書推進への協力、各種催事での図書販売 など。

②「スミセイおはなしひろば」への協力

平成24年度に全国一巡を完了。2巡目、3地域／埼玉県、山口県、長崎県での実施。

③「赤ちゃん和妈妈のおはなし会」への協力

アカチャンホンポ店内でのおはなし会を毎月 35 店舗程度の開催に協力。

④朝日新聞 読書推進事業への協力

朝日新聞社が主催する「オーサー・ビジット」（今年度は 18 回開催）「どくしょ甲子園」「地球教室」などに協力。

⑤第 48 回「造本装幀コンクール」への協力

日本書籍出版協会と日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」に協力する。

⑥生命保険協会「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」への協力

生命保険協会公益事業「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」の第 3 期 3 カ年の 1 年度目に協力。講習会を 3 年で全国 2 周開催する。

⑦「21 世紀活字文化推進プロジェクト」協力

読売新聞社が主管する「21 世紀活字文化プロジェクト」に協力する。大学生を中心とした、青年層への活字文化推進活動で協力を検討。

収支予算書 1

収支予算書 2

収支予算書 3

収支予算書 4

定 款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般財団法人出版文化産業振興財団（英文名 Japan Publishing Industry Foundation for Culture。略称「JPIC」）と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

2 この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 この法人は、出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進、出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究、人材育成、情報の収集及び提供等を行うことにより同産業の振興を図るとともに、読書活動の推進をはかることにより、我が国経済社会の健全な発展・国民の生活文化の向上・青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 この法人は、前条の目的に資するため、次の事業を行う。

- (1) 出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進
- (2) 出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究
- (3) 出版文化産業及び読書活動に関する人材育成
- (4) 出版文化産業及び読書活動に関する情報収集及び提供
- (5) 出版文化産業及び読書活動に関する内外関係機関等との交流及び協力
- (6) 前各号に掲げるもののほか、本財団の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。

第3章 資産及び会計

(資産の構成)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産は、この法人の基本財産とする。

2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を得なければならない。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事業報告及び決算)

第7条 事業報告書及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

2 前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに、定款を主たる事務所に備え置くものとする。

3 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

第4章 評議員

(評議員)

第8条 この法人に評議員30名以上40名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第9条 評議員の選任及び解任は、評議員会の決議をもって行う。

(任期)

第10条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

3 第8条に定める評議員の員数が欠けた場合には、任期の満了又は辞任により退任した評議員は、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬)

第11条 評議員の報酬は、無報酬とする。

第5章 評議員会

(構成)

第12条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)

第13条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
- (4) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分又は除外の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第14条 この法人の評議員会は、定時評議員会及び臨時評議員会とする。定時評議員会は、毎事業年度の終了後3ヶ月以内に開催し、臨時評議員会は、必要に応じて開催する。

(召集)

第15条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が召集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び召集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第16条 評議員会の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の3分の2以上に当たる多数を持って行う。

- (1) 監事の解任
- (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (3) 定款の変更
- (4) 基本財産の処分又は除外の承認
- (5) その他法令で定められた事項

(決議の省略)

第17条 理事が、評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があ

ったものとみなす。

(報告の省略)

第 18 条 理事が、評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第 19 条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、議長並びに出席評議員及び理事の各 1 名がこれに記名押印するものとする。

第 6 章 役員等

(役 員)

第 20 条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 20 名以上 30 名以内
- (2) 監事 3 名以内
- 2 理事のうち 1 名を理事長とし、4 名を副理事長、1 名を専務理事、6 名を常務理事とし、2 名以内を業務執行理事とすることができる。
- 3 前項の理事長をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

(役員を選任)

第 21 条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び、副理事長、専務理事、常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 91 条第 1 項第 2 号に定める業務執行理事は理事会の決議によって理事の中から選定し、うち 1 名は専務理事とする。

(理事の職務及び権限)

第 22 条 理事は理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、この法人を代表し、法人の業務を執行し、専務理事及びその他の業務執行理事は、理事会において別の定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長、専務理事及びその他の業務執行理事は、毎事業年度に 4 ヶ月を超える間隔で 2 回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第 23 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第 24 条 理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとする。

4 理事又は監事は、第 20 条に定める定数に足りなくなるときは、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員改選)

第 25 条 理事及び監事が次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

第 26 条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

(役員損害賠償責任の免除)

第 27 条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 114 条第 1 項の規定により、理事又は監事が任務を怠ったことによる損害賠償責任を、法令に規定する額を限度として理事会の決議により免除することができる。

(外部役員責任限定契約)

第 28 条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 115 条第 1 項の規定により、外部理事又は外部監事との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任の限定契約を締結することができる。
なお、責任の限度額は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 113 条第 1 項の規定による最低責任限度額とする。

(顧問)

- 第 29 条 この法人に、顧問 5 人以内を置くことができる。
- 2 顧問は、学識経験者又はこの法人に功労のあった者のうちから、理事会の推薦により、理事長が委嘱する。また解任については理事会において決議する。
- 3 顧問は、この法人の運営に関して理事長の諮問に答え、又は理事長に対して意見を述べる。
- 4 顧問の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 5 顧問の報酬は無償とする。
- 6 顧問の選任及び解任は、理事会において決議する。

第 7 章 理事会

(構 成)

- 第 30 条 理事会は、すべての理事で構成する。

(権 限)

- 第 31 条 理事会は、次に掲げる職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(召 集)

- 第 32 条 理事会は、理事長が招集する。
- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
- 3 理事会を招集する者は、理事会の日時、場所、目的、その他必要な事項を記載した書面をもって、理事会の日の 1 週間前までに、各理事及び各監事に対してその通知を発しなければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、召集の手続きを経ることなく開催することができる。

(議 長)

- 第 33 条 理事会の議長は、理事長とする。

(決 議)

- 第 34 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 197 条において準用する同法第 96 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があ

ったものとみなす。

(決議の省略)

- 第 35 条 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなすものとする。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(報告の省略)

- 第 36 条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知した場合においては、その事項を理事会に報告することを要しない。
- 2 前項の規定は、第 22 条第 3 項の規定による報告には適用しない。

(議事録)

- 第 37 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

- 第 38 条 この法人は、評議員会の決議によって定款を変更することができる。
- 2 前項の規定は、この定款の第 3 条、第 4 条及び第 9 条についても適用する。

(解 散)

- 第 39 条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由により解散する。
- 2 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

- 第 40 条 この法人の公告方法は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法とする。

第 10 章 事務局

(事務局)

第 41 条 この法人に事務局を置く。事務局の組織及び運営に関して必要な事項は理事会で定める。

第 11 章 雑 則

(委 任)

第 42 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登記を行ったときは、第 6 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 この法人の設立当初の事業年度は、第 6 条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 25 年 3 月 31 日までとする。
- 4 この法人の最初の理事長は肥田美代子とする。
- 5 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

秋田貞美	大橋一弘	川島孝文
柳楽節雄	坂井宏先	筒井正博
井上一夫	斎藤健司	江崎直利
今村正樹	齊藤隆巳	田江泰彦
関谷幸一	伊藤 聡	片岡 隆
高納勝寿	谷川直人	小泉忠男
清水康史	加藤真由美	亀井忠雄
増田義和	金田 徹	石川博史
大塚 茂	岩本幸子	北島義斉
鈴木一行	和田年正	大湊 満
鹿谷史明	森岡忠弘	濱田博信
岩渕 徹	外山義朗	
溝口明秀	山去賢二	
伊藤富士男	土屋正三	

禁無断転載

平成 26 年 6 月

発 行 一般財団法人出版文化産業振興財団
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3

電 話 03 (5211) 7282

印 刷 太陽印刷工業株式会社